

## 地域まちづくり事業助成金交付の状況について

- 1 助成金交付審査委員会開催日時  
平成 30 年 7 月 19 日（木）11 時～11 時 30 分
  
- 2 案件
  - (1) (神奈川区)「松ヶ丘まちづくりプラン」に基づく整備について
    - ア 内容  
かまどベンチ、まちかどベンチの整備
    - イ 申請された助成金対象経費  
¥350,656.－
  
- 3 審査結果  
了承（かまどベンチの助成率は 10 割、まちかどベンチの助成率は 9 割）

松ヶ丘防災に強い町をつくる会  
平成 30 年度事業費助成の助成率の考え方について

整備内容	助成率	考え方
		<p>「松ヶ丘まちづくりプラン」(地域まちづくりプラン)は、地域住民の参画を得た検討を経て、平成 27 年 11 月にプラン認定をされました。</p> <p>同プランにおいては、まちづくりの目標として「大地震(大規模災害)に備える」を掲げています。</p> <p>平成 28 年度は、地域防災拠点や広域避難場所へ円滑に移動できるよう既存掲示板に避難誘導サインを設置したほか、災害発生時における自治会内外の緊急情報・被災情報等を正確かつ早急に把握するための情報発信板を自治会館外壁に整備しました。</p> <p>平成 29 年度は、いっとき避難場所、地域防災拠点及び広域避難場所への避難誘導経路を記載した町内案内図として「災害用まちなか案内板」6 基を整備しました。また、既存の町内案内図 2 基について「災害用まちなか案内板」と同様の仕様に改修を行いました。</p> <p>平成 30 年度は、いっとき避難場所の「松ヶ丘公園」に「かまどベンチ」を 1 基設置するとともに、町内の民地部分に一休みできる「まちかどベンチ」を 1 基設置します。</p>
かまどベンチ (1 基)	10/10	<p>かまどベンチの設置場所は、いっとき避難場所に位置づけた公園(松ヶ丘公園)において、公園の管理者である土木事務所の許可を得て設置し、通常時は公園施設のベンチとして使用することになっています。災害時には座板をはずして「かまど」として使用し、地域住民のため炊き出し等に活用します。このように公園内でのかまどベンチの設置は極めて公共性が高く、今回は協議会で整備を行いますが、通常は自治体が自ら整備しています。</p> <p>以上のことから事業の公共性が著しく高いと特に認められるため、横浜市地域まちづくり事業助成金交付要領第 3 条第 4 項に規定した 10 分の 10 を助成率として採用します。</p>
まちかどベンチ (1 基)	9/10	<p>「松ヶ丘まちづくりプラン」では、「大規模災害に対する最も大切な備えの一つは、自助・共助・近助が可能な体制づくり」であるとして、コミュニケーションの活性化を図る近助の取組についても言及しています。</p> <p>「まちかどベンチ」の設置は、同プランに位置づけられているもので、ベンチで一休みすることによる身体の負担軽減や、ベンチ休憩者とのコミュニケーション活発化、子ども達の見守り等、安心安全な住環境の確保に寄与するものであり、公共性が高いと認められます。</p> <p>以上のことから、横浜市地域まちづくり事業助成金交付要領第 3 条に規定した基本の助成率である 10 分の 9 を採用します。</p>

松ヶ丘自治会 松ヶ丘防災に強い町をつくる会  
平成30年度 地域まちづくり事業助成金 交付申請書

〈事業計画書〉

## 1. 地域まちづくりの経緯

松ヶ丘は、横浜駅から程近い丘の上に1200世帯・2500人ほどが暮らす静かな住宅街です。町内は、昔からの地形が生かされているため高低差が大きく、階段道路もあり、道路の多くは狭あい道路です。

平成24年2月、松ヶ丘の一隅に念願の松ヶ丘自治会館が竣工しました。しかし、この松ヶ丘自治会館の建設が確定し、いざ起工しようとしていた矢先、あの東日本大震災が発生。これを受けて平成24年5月、松ヶ丘自治会は「松ヶ丘防災隊活動要領」を制定し、これに基づいて町ぐるみで防災面の課題を解決することを、大規模災害に備える手始めとしました。

その第一歩として取り組んだのが、「ヨコハマ市民まち普請事業」への参加でした。平成25年度この事業に参加して、1次、2次のコンテストに合格。「ヨコハマ市民まち普請事業」整備助成金を受け、松ヶ丘自治会館に防災備蓄品の収納庫を整備して、いっとき避難場所として20名までが泊まれるよう準備をしました。

続いて平成26年2月1日、松ヶ丘自治会の下部組織として「松ヶ丘防災に強い町をつくる会」の発足を実現。横浜市の地域まちづくり支援制度に基づく「松ヶ丘まちづくりプラン」を策定して必要事業を特定しました。平成27年11月13日、活動組織とプラン内容がそれぞれ横浜市長の認定を受け、市と連携しながら住み心地のよい松ヶ丘の実現を目指して事業化していくことが正式に認定されました。これを踏まえて平成28年度は、松ヶ丘自治会館外壁に情報発信板、既存の掲示板下部等に避難誘導サインの設置を完了しました。

引き続き平成29年度は、まちなか案内板の整備(6基)、松ヶ丘町内案内図の改修(2基)に着手し完成に至りました。今後は町内の居住形態の変化を見ながら地区全体のまちづくりルールの策定に向けた検討も視野に入れ、住み心地のよいまち、防災に強いまちづくりを目指し、空き家対策や町内の家屋密集の抑制、要援護者や乳幼児・児童のいる家庭への配慮の行き届いたゆとりあるまちづくりを目指し、様々な活動を積極的に行っていきます。

その手始めとして、平成30年度は、町内に公募して決定した通りの愛称をプレートにして掛けることに加えて、まちかどベンチを主に勾配のある道路の周辺に設置すると共に、松ヶ丘公園にかまどベンチの設置を行い、防災面での一層の強化を図ると共に、町内のコミュニケーションを円滑に進め、日頃から顔の見える人間関係づくりを広げていきます。

## 2. 助成金を受けて行う事業の目的

町内住民や町内通行者の安全確保や休憩に資するため、町内の主に勾配のある道路の一角にベンチの設置を行います(1基)。加えて防災用かまどベンチを購入し、松ヶ丘公園に設置して、大規模災害の発生時には暖を取ったり煮炊きをしたりすることで災害被害の軽減を図ります(1基)。

これらを整備することにより災害発生時の被害の軽減を図ると共に、これらの手立てがあることを町内に広く周知して、平時から町内の街並みへの理解、関心を深め、町内の円滑なコミュニケーションを促し、高齢者の通行の負担を軽減し、子ども達の安全な登下校を見守る環境を確保します。

### 3. 助成金申請事業の位置付け

平成27年11月にプラン認定された「松ヶ丘まちづくりプラン」では、『松ヶ丘を、次代が引き継ぎたく思う住み心地のよいまちにする』をまちづくりの目標と捉え、4本の柱を立て、まちの抱える課題の解決にあたることとしました。「A 大地震（大規模災害）に備える」「B 火災に備える」「C 交通災害に備える」「D 自助・共助・近助が可能な体制づくり」の4本の柱は、18項目のプロジェクトの推進により実現可能なものとなると考え、防災地図の作成や、階段道路への手すりの整備など、既に着手したものもいくつかあります。また、要援護者の把握活動や、総参加防災訓練、すくすくかめっ子事業などのように長期にわたって継続していく活動もあります。既に完了した「A-2 まちなか案内板の設置」「A-3 情報発信板の設置」などに加えて、本申請事業は、「A 大地震（大規模災害）に備える」「A-1発生時の避難の安全性を確保する」「D 自助・共助・近助が可能な体制づくり」「D-2 まちを好きになってもらう工夫」の一環として位置付けられるものです。

### 4. 交付申請する事業計画

#### (1) 申請事業の内容

まちかどベンチを、主に勾配のある道路の周辺に設置する(1基)と共に、松ヶ丘公園にかまどベンチの設置を行います(1基)。これにより町内のコミュニケーションを円滑に進め、日頃から顔の見える人間関係づくりを広げて、自助・共助・近助が可能な体制づくりに繋げていくと共に、防災面での一層の強化を図り、町内の災害被害の拡大の抑止を目指します。

松ヶ丘の街並は、既述のとおり昔からの地形が生かされているため、坂道が多く階段道路もあって、道路の多くは狭い道路です。従って、日頃の買い物や通行に勾配のある道路を昇降することは避けられませんが、一方で町内住民の高齢化が進んでおり、重い荷物を持って坂道を上がって来たところで一服出来る場所があればよいのに、との声を多数いただいてきました。そこで、主に勾配のある道路の周辺にまちかどベンチ(1基)を設置することを申請します。

また、松ヶ丘は、大規模災害発生時緊急輸送路に指定されている国道一号線を横断し、不燃化推進地域(木造家屋密集地域)である松本町を通過して丘を上った先にある栗田谷中学校が、地域防災拠点として指定されています。加えてこの中学校は松ヶ丘の通学区域外であるので、この地域防災拠点までの避難誘導を的確に行うと同時に、いっとき避難場所である松ヶ丘自治会館、松ヶ丘公園などの機能を充実させる必要があります。そこで、大規模災害発生時に暖を取ることや、煮炊きをすることを旨として、松ヶ丘公園内にかまどベンチ(1基)を設置することを申請します。

なお、これらの事業は市担当部局と綿密に打ち合わせて、地域の通行情報との整合性に配慮し、設置につきましては土木事務所等や周辺住民と的確に調整して行います。

仕様	まちかどベンチ
	かまどベンチ

#### (2) 事業の概算金額 (平成30年度整備分)

・総額	351,410円	
内訳)	地域まちづくり事業助成金	350,656 円
	松ヶ丘自治会・松ヶ丘防災に強い町をつくる会	754 円

### (3) 事業のスケジュール松ヶ丘防災に強い町をつくる会

当該申請に対する事業費助成交付決定後に事業着工し、平成30年度はまちなかベンチの整備(1基)と、かまどベンチの設置(1基)を実施する予定です。

## 5. 申請事業の実施による予測効果

まちなかベンチの設置は、日頃買い物に出かける際に必ず坂を上り下りせねばならない現在、坂道の半ばで荷物を持ってひと休みする高齢者の負担の軽減を図り、住民の通行を楽にする効果が期待できます。加えて、近隣のコミュニケーションを促し、子ども達の登下校を見守るきっかけづくりにも役立つものと考えます。これにより、発災時の自助、共助、近助が可能な体制づくりにつながることを期待されます。

また、松ヶ丘公園にかまどベンチを設置することは、大規模災害発生時に暖を取ることや炊き出しをすることを可能にします。加えて、発災を想定した訓練を行うことにより、災害に対する備えの重要性を啓発し、いっとき避難場所としての松ヶ丘公園の機能の高さと地域が連携して災害に対処することの必要性を周知する手立てとなり得ることが期待されます。

これにより、安心して住み続けられる快適な住環境が実現され、住民の防災意識の一層の高揚と自分の住んでいる街を好きになるきっかけづくりへと繋がり、自治会活動への関心の高まりが期待できます。

## 6. 事業計画実施状況の地域説明

松ヶ丘自治会では平成27年度、28年度、29年度、30年度の各総会において、「松ヶ丘防災に強い町をつくる会」の主旨、事業計画、認定に向けての進捗状況などを詳細にわたって説明し、承認を得て事業を進めてきました。また、認定後の事業化についても、毎月第1土曜日夕刻、松ヶ丘自治会理事会を開催して、その席上「松ヶ丘防災に強い町をつくる会」での検討内容や事業の進行状況が、全理事に關係書類と共に説明されています。また、理事会の内容は議事録となって町内全13班37組に隈なく回覧されており、その際事業關係書類も回覧されています。

今後具体的にまちなかベンチ並びにかまどベンチを設置する日程が決定しましたら、近隣住民への情報提供などを怠りなく行っていく予定です。

## 7. 施設の維持・管理等

松ヶ丘自治会並びに松ヶ丘防災に強い町をつくる会が管理体制を整え、維持管理を行っていきます。既に12基の掲示板(避難誘導サイン付)、8基の災害用まちなか案内板、情報発信板について松ヶ丘自治会が適切に維持管理を行っており、今後完成するまちなかベンチ、かまどベンチにつきましても、日々の点検と補修を怠りなく継続していく用意があります。

松ヶ丘防災に強い町をつくる会

まちかどベンチ設置場所



まちかどベンチ設置場所



かまどベンチ設置場所 松ヶ丘公園